

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100327		
法人名	株式会社 アイ・エム・シー ライフステージ		
事業所名	IMCグループホーム大原		
所在地	高知市大原町88-2		
自己評価作成日	平成24年10月30日	評価結果 市町村受理日	平成25年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の個性や思いを尊重し一人一人が自分のペースで自立した生活が営めれるように支援している。また、入居者の方が地域と関わられるよう、地域のお祭り行事への参加や事業所内で開催しているいきいき体操にも参加するなど地域との関係が深まるよう取り組んでいる。また、職員は入居者の方を人生の大先輩と敬い、心のこもった関わりを意識しながらケアに取り組むよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JgvosyoCd=3990100327-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年12月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近隣は公共施設、集合住宅、民家等が混在し、地域との繋がりが希薄になりがちな環境にある。そのような中で事業所は、1階の地域交流ホールを活用して地域住民との交流を図るほか、保育園の運動会に招かれたり、2~3か月に1回「広報新聞」を配布するなど、地域へ出向き地域に発信する努力をしている。また、基本理念に加え、支援する上でのテーマを10日ごとに決めて職員に意識付けしており、職員は、テーマを実行する過程で色々な気づきを具体的に見出し、日々のケアに活かしている。利用者の自立支援を目指し、利用者が出来るだけ長く家事活動等続けられることを大切にケアに努めている事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:大原1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念があり、職員全体で理念の意味や考え方を統一できるようフロア会やミーティングなどで話し合い理解を深めている。	「利用者の人格を尊重した自立支援を目指す」という趣旨の基本理念に加え、「あいさつを徹底する」、「ピカピカに掃除をする」などのテーマを決め、意識付けしている。職員は、テーマの実行過程で色々な気づきを見出し、理念を実践に繋げるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや保育園の運動会へ参加。また地域交流ホールでいきいき体操に参加することで地域の方と交流を深めている。地域・広報委員会を中心に地域とつながっていく取り組みを検討している。	建物の1階にある地域交流ホールで行っている「いきいき百歳体」に地域住民も参加しており、交流の場となっている。また、保育園の運動会に招かれ見学に行ったり、2～3か月に1回「広報新聞」を配布するなど、地域へ出向き地域に発信する努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、事業所の理解を深められるよう努めている。また、事業所の広報誌を公民館やスパーなどに配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、事業所の活動状況等を報告し、各委員の意見を取り入れサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。状況報告の他にも、起震車を借りて防災訓練を実施することが提案され体験するなど、出された意見をサービスの向上に活かす取り組みをしている。家族の出席については、前回の家族会で呼びかけているが、まだ実現していない。	運営推進会議の構成員である家族の参加について、開催時間や日程等を工夫することにより、参加を得られるようにすることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡協議会に参加し協力関係を築くように取り組んでいる。	事故報告の他、日常的な相談事などについても互いに連絡を取っている。また、市主催の研修会にも参加するなど、連携を図るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会や勉強会を開催し、身体拘束について話し合い意識を高め、拘束しないケアに取り組んでいる。また、夜間帯以外は玄関の施錠はしていない。	年間計画に沿って勉強会を開催し、フロア会でも随時話し合っ、身体拘束をしないケアに努めている。忙しくて余裕の無い時に起こりやすい言葉や態度による拘束についても、職員間で互いに注意しながら支援している。日中は玄関に施錠はしていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修への参加や、フロア会などで話し合い、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受講している。現在、該当事例はない為、今後も十分理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項や契約書に基づき、リスク面など含め十分時間を設け説明をし理解を深めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や電話連絡でコミュニケーションを図り、意見や要望を伺っている。また、年に2回家族会等も活用し運営に繁栄できるようにしている。	年2回家族会を実施するようにしている。会にはほぼ半数の家族が出席し、食事を取りながら打ち解けた話ができるように努めているが、意見はあまり出ていない。また、まとめ役となる家族がいないため、家族だけでは活発な話し合いは出来ないということで、家族同士で話し合える機会も設けていない。個別には面会時や電話で意見や要望を聞くようにしている。	運営推進会議に出席できる家族代表に家族会でも中心になってもらうなど、家族同士だけでも活発に話し合える方法を工夫し、場の設定をすることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会や定期的な面談により職員からの意見を吸い上げるようにしている。また、フロア長、リーダーと話し合い反映できるようにしている。	法人全体で昨年度から始めた、職員の目標を書いた「夢シート」提出時に個人面談も行き、ざっくばらんに話をするようにしている。また、普段から、日々のケアの事や勤務の事などについて、出来るだけ職員から聞くようにしており、その内容を反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や職場環境など把握している管理者は職員と面談する機会を設け、意見を聴きやりがいを持てるようアドバイスしている。また、福利厚生 of 充実により働きやすい職場作りに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政が主催する研修や毎月の勉強会や定期的な内部研修を計画し資質向上に努めている。また、日々のケア方法を観察し、フロア長や管理者が助言している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加することで交流を図ったり、定期的に法人内の事業所と研修する機会を持ちサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、心身状況や置かれている生活状況を把握し、信頼関係を築けるようにご意向など伺うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時から、利用経緯を含めご意向などを聴き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に、ご本人の生活状況をご本人やご家族から聞き取り、他のサービスを含め適しているかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意思を尊重し、入居者の意向に沿った介護を基本とし、共に暮らしていく関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を面会時や必要に応じて電話連絡で伝え、ご家族の意向なども聴くようにし、入居者とご家族の関係を大切に築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力してもらいながら、お墓参り出かけたりするなど馴染みの場所や知人や親類と会ったり電話をかけたりと関係が繋がるように努めている。	個人差はあるものの、友人や知人の訪問が比較的多く、居室に入ってゆっくり話をするなど、利用者は馴染みの人達との触れ合いを楽しんでいる。また、家族の協力を得て、墓参りに行ったり、ドライブがてら馴染みの店や場所に寄るなど、昔からの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事活動や行事・食事などを通じて、入居者同士の関わりに繋がっている。また、職員が間に入り交流の手助けする事で良い関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も病院へのお見舞いなどを通して、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に、本人や家族から生活歴などを聞き取り本人の立場に立っての思いを踏まえ、入居後も生活の中で、ご本人の思いや会話や表情から読み取り確認している。	7割ぐらいの利用者は自分の気持ちを表すことができるので、意向を聞き、できる限り直ぐに対応するようにしている。意向の把握が困難な利用者には、日々の表情や態度を観察し、家族からも情報を収集して、利用者本位に支援するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、本人や家族から生活歴を伺い、入居後もご家族から情報を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を観察し、毎日のミーティングや記録を通じて職員間で情報を共有し把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティングやフロア会を通じてケアの実践状況や気づきなどを職員間で情報共有すると共に、介護計画に繋がるよう見直しを図っている。また、ご家族にご意向を伺い介護計画の反映に努めている。	家族からは、面会の時や計画更新時に電話で希望等を聞き、モニタリングを行い、フロア会で話し合っており、3か月ごとに介護計画を見直している。状態に変化がある時は適宜見直し、利用者の現状を反映した介護計画になるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子や状態変化など、個人ケースや日誌に記録している。また、職員間で共有し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況によっては、通院の付き添いや買い物など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の地域代表者から地域の情報収集に努め、地域活動に参加するなど接点を見出し、入居者の生活を支え合う関係作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。ご家族の付き添いを基本としているが、状況に応じて職員が柔軟に対応している。また、必要などきはかかりつけ医と連絡を取り合い連携を図っている。	基本的に従前からのかかりつけ医に受診しており、可能な限り家族が同行し、困難な時は職員が対応するようにしている。協力医療機関の往診を受けている利用者もいる。通院の際は必要に応じて症状等について手紙を添え、受診結果は互いに報告して共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週に1～2回勤務。それ以外でも24時間連絡を取れる体制を作っている。また、看護連携マニュアルに基づき入居者の健康管理について介護職員と共有し、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、かかりつけ医に定期的に連絡や面会に伺い、早期に退院できるよう連携を図っている。また情報収集や関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針に基づき、事業所で対応できる支援について説明し、ご家族から同意を得ている。看取り事例はないが、今後、入居者やご家族から意向に沿って納得した終末期を迎えられるよう看護師、かかりつけ医と連携を図りながら支援していくよう取り組んでいく。	入居時に看取りの指針について説明し、事業所の対応方針等を説明している。看取りの事例はないが、家族からの希望があれば、関係者と話し合い可能な対応を取るようになっているが、具体的なマニュアルは作成されていない。	過去に看取りの事例が無く、具体的なマニュアルもない場合、実際の場面では関係者等との連携がスムーズに取れないこと等が予想される。利用者及び家族が安心して終末期を迎えることができるようにするためにも、具体的なマニュアルを作成し、安心して取り組める体制を整えることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時に速やかに対応できるように、新人研修や勉強会など機会を設けている。また、消防機関の協力を得て救命講習の勉強する機会を作り、職員のスキルが上がるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って緊急連絡網を作成し、避難訓練実施している。囲碁サークルの方や地域住民の方に協力をしてもらい防災訓練を実施する。また、消防機関の協力を得て起震車を借り、近隣の方と震災体験を実施する。	運営推進会議での発案で、起震車による地震体験を行ったり、指定避難場所である市の総合体育館まで避難する訓練をしたり、地域住民も参加して消火訓練をするなど、地域の協力を得て災害に備えた訓練を実施している。非常用食料等についても、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に建物2階に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から入居者を人生の先輩として敬い、日々、携わらる中で意思を尊重した言葉かけを心がけプライバシーの配慮に努めている。また、日々の朝礼などで尊厳を守る事を確認している。	利用者の人格を傷つけたりプライバシーを損ねるような言動を行わないよう、気がついたことがあればフロア長が注意し、適切な対応が出来るように心掛けている。また、お互いが信頼し合った関係の中で生まれる親しい言動と、ただの馴れ馴れしい言動は違うという認識のもと、日々のケアの中での対応に留意して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を尊重して、意向が言えるよう、自己決定できる場面づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、生活の中で意向を伺いながらできる限り希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に衣服を選んでもらったり、その人らしいおしゃれや身だしなみができるようご家族の方にも協力してもらっている。また、化粧品がなくなったら買いにも出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立や食材調達は業者依頼しており、入居者の嗜好を伝えている。準備や片付けなどできる役割は参加してもらっている。	食材を委託業者から購入しているため、メニューは基本的に業者の栄養士が決めたものになるが、行事の時や野菜をもらった時などはアレンジして調理している。利用者は盛り付け、配膳、後片付けなど出来ることを行い、数人の職員が利用者と同じものを食べ、他の職員は介助しながら食事の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせて、栄養、水分が偏らないようチェック表を用いて把握している。また、入居者の体調や生活パターンに応じて食事の時間など柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に応じて、声かけや支援するなど口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を観ながら、できる限りトイレで排泄できるよう個々の状態に応じて対応している。夜間は個々の状態に応じて夜間用のパッドを使用している方もいる。	日中、自分でトイレに行ける利用者が6～7割ほどいる。他の利用者もチェック表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導して、排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間もオムツ利用者は無く、夜間用のパッドで対応している。入居時に紙パンツを使用していた利用者が布パンツになるなど、改善した事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症状の方には、起床時に冷たい牛乳などを飲用して頂いたり、入居者に応じて飲み物を工夫している。また、散歩や体操など運動を取り入れ、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じて入浴できるように努めている。入浴が拒まれる入居者には、タイミングや声のかけ方など工夫して入浴できるようにしている。	基本的に3日に1回入浴することになっているが、個々の希望にも対応して支援している。入浴を拒否する利用者には、声掛け等のタイミングや方法を替えて対応しており、少なくとも1週間に1回は入浴できるように支援している。この場合も清潔を保つよう、清拭を併用して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり安眠できるよう日中の運動や役割などできる活動に参加してもらい、安心して眠れるよう関わっている。また、入居者の体調に応じて日中、休む時間を作るなど柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日誌やチェック表など使って服薬の用法など職員間で情報を共有している。また、服薬前に服薬の心得を読み合わせ意識を高め、二者で服薬確認して服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や散歩、歌など、その方に合った役割や趣味、楽しみを把握し、職員が関わるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に少人数で散歩や買い物には出かけている。入居者の意向を伺いながら外出する機会を作っている。また、ご家族の協力を得て住み慣れた地域へ外出されている。	事業所周辺の散歩に出掛けたり、職員数が少ない時は、2階のベランダや1階の中庭に出て外気浴を楽しむなど、戸外に出て気分転換が図れるように努めている。また、行事等の外出は年間計画を立て、月に1回程度は出掛けるようにしており、家族の協力を得てショッピングや観劇等に出掛ける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で預かっている。家族に了解を得て移動販売やコンビニエンスストアなどの買い物の際に、お金を使えるように支援している。また、個人で所持している入居者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話をかけたい場合は、できるように支援している。また、携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節の花を飾ったり、職員の声のトーンや光や温度の調整し、音楽やテレビなど個々に応じて居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用空間は清潔で明るく、広いリビング兼ダイニングにはソファ、テーブル、椅子を配置し、思い思いの場所で利用者がくつろげるようにしている。壁や部屋の飾りは季節のものを職員や利用者で作ったり、行事の写真を貼ったりして、季節感や思い出を大切に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の居場所が作れるよう、置いたりして、入居者同士が思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に、使い慣れたものや馴染みのものなどを持ってきてもらうよう協力を得ている。	備え付けの洋服ダンス以外は、ベッド、整理ダンス、椅子、テレビ等を持ち込み、利用者が個々に使いやすいように工夫して、居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室、廊下などバリアフリー構造にしており、廊下やトイレなどに手すりを設置し、一人一人の状態に合わせて自立した生活が送れるよう配慮している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名：大原2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念があり、職員全体で理念の意味や考え方を統一できるようフロア会やミーティングなどで話し合い理解を深めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや保育園の運動会へ参加。また地域交流ホールでいきいき体操に参加することで地域の方と交流を深めている。地域・広報委員会を中心に地域とつながっていく取り組みを検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、事業所の理解を深められるよう努めている。また、事業所の広報誌を公民館やスパーなどに配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、事業所の活動状況等を報告し、各委員の意見を取り入れサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡協議会に参加し協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会や勉強会を開催し、身体拘束について話し合い意識を高め、拘束しないケアに取り組んでいる。また、夜間帯以外は玄関の施錠はしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修への参加や、フロア会などで話し合い、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受講している。現在、該当事例はない為、今後も十分理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項や契約書に基づき、リスク面など含め十分時間を設け説明をし理解を深めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や電話連絡でコミュニケーションを図り、意見や要望を伺っている。また、年に2回家族会等も活用し運営に繁栄できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会や定期的な面談により職員からの意見を吸い上げるようにしている。また、フロア長、リーダーと話し合い繁栄できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や職場環境など把握している 管理者は職員と面談する機会を設け、意見を聴きやりがいを持てるようアドバイスしている。また、福利厚生の実施により働きやすい職場作りに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政が主催する研修や毎月の勉強会や定期的な内部研修を計画し資質向上に努めている。また、日々のケア方法を観察し、フロア長や管理者が助言している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加することで交流を図ったり、定期的に法人内の事業所と研修する機会を持ちサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、心身状況や置かれている生活状況を把握し、信頼関係を築けるようにご意向など伺うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時から、利用経緯を含めご意向などを聴き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に、ご本人の生活状況をご本人やご家族から聞き取り、他のサービスを含め適しているかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意思を尊重し、入居者の意向に沿った介護を基本とし、共に暮らしていく関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を面会時や必要に応じて電話連絡で伝え、ご家族の意向なども聴くようにし、入居者とご家族の関係を大切に築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力してもらいながら、お墓参り出かけたりするなど馴染みの場所や知人や親類と会ったり電話をかけたりと関係が繋がるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事活動や行事・食事などを通じて、入居者同士の関わりに繋がっている。また、職員が間に入り交流の手助けする事で良い関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も病院へのお見舞いなどを通して、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に、本人や家族から生活歴などを聞き取り本人の立場に立っての思いを踏まえ、入居後も生活の中で、ご本人の思いや会話や表情から読み取り確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、本人や家族から生活歴を伺い、入居後もご家族から情報を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を観察し、毎日のミーティングや記録を通じて職員間で情報を共有し把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティングやフロア会を通じてケアの実践状況や気づきなどを職員間で情報共有すると共に、介護計画に繋がるよう見直しを図っている。また、ご家族にご意向を伺い介護計画の反映に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子や状態変化など、個人ケースや日誌に記録している。また、職員間で共有し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況によっては、通院の付き添いや買い物など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の地域代表者から地域の情報収集に努め、地域活動に参加するなど接点を見出し、入居者の生活を支え合う関係作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。ご家族の付き添いを基本としているが、状況に応じて職員が柔軟に対応している。また、必要なときはかかりつけ医と連絡を取り合い連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週に1～2回勤務。それ以外でも24時間連絡を取れる体制を作っている。また、看護連携マニュアルに基づき入居者の健康管理について介護職員と共有し、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、かかりつけ医に定期的に連絡や面会に伺い、早期に退院できるよう連携を図っている。また情報収集や関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針に基づき、事業所で対応できる支援について説明し、ご家族から同意を得ている。看取り事例はないが、今後、入居者やご家族から意向に沿って納得した終末期を迎えられるよう看護師、かかりつけ医と連携を図りながら支援していくように取り組んでいく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時に速やかに対応できるように、新人研修や勉強会など機会を設けている。また、消防機関の協力を得て救命講習の勉強する機会を作り、職員のスキルが上がるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って緊急連絡網を作成し、避難訓練実施している。囲碁サークルの方や地域住民の方に協力をしてもらい防災訓練を実施する。また、消防機関の協力を得て起震車を借り、近隣の方と震災体験を実施する。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から入居者を人生の先輩として敬い、日々、携わる中で意思を尊重した言葉かけを心がけプライバシーの配慮に努めている。また、日々の朝礼などで尊厳を守る事を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を尊重して、意向が言えるよう、自己決定できる場面づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、談笑するなどゆっくり過ごせる時間を大切に、入居者は自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれができるよう衣類選びなどできる限り自己決定する場面を作って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立や食材調達は業者依頼しており、入居者の嗜好を伝えている。入居者の状態合わせ準備や片付けなどできる役割は参加してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせ、栄養、水分が偏らないようチェック表を用いて把握している。また、水分が確保できるよう細めに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に応じて、声かけや支援するなど口腔ケアを実施している。入居者の状態によって週1回歯科往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を観ながら、できる限りトイレで排泄できるよう個々の状態に応じて対応している。夜間は個々の状態に応じて夜間用のパッドを使用している方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物、栄養管理の工夫や、体操や歩行など運動する機会を作るとともに、水分摂取に配慮し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じて入浴できるように努めている。入浴が拒まれる入居者には、タイミングや声のかけ方など工夫して入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に応じて休息してもらうなど、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日誌やチェック表など使って服薬の用法など職員間で情報を共有している。また、服薬前に服薬の心得を読み合わせ意識を高め、二者で服薬確認して服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好むことを念頭に置き、入居者と関わる中で楽しみを見つけたり、興味を持てる話題を作るなど、雰囲気大切にしながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者と関わる中で希望を把握し、ドライブなど外気に触れる機会を作るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はしているが、基本的には事業所で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話の希望があれば取り次ぐようにはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の温度調整や光の調整など居心地の良い空間作りに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の居場所が作れるよう、置いたりして、入居者同士が思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り家族に、使い慣れた物や馴染みの物などを持ってきてもらい、今までの生活環境の継続に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室、廊下などバリアフリー構造にしており、廊下やトイレなどに手すりを設置し、一人一人の状態に合わせ自立した生活が送れるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない